

告 辞

キャンパス内にイペー（コガネノウゼン）の黄色の花が咲き誇る季節に、ご来賓、保護者並びに同窓会の皆様のご臨席のもと、平成 29（2017）年度琉球大学卒業式並びに大学院修了式を挙行できますことは、大きな喜びとするところでございます。

学部卒業生並びに大学院修了生諸君！おめでとうございます。琉球大学の在学生と教職員を代表して、諸君の卒業並びに修了を心から祝福申し上げます。また、これまでご子息・ご息女を温かく見守り支えてこられました、ご家族・保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

本日、学部長及び研究科長の申請に基づき、めでたく卒業・修了を許可されたのは、学部生 1,484 名、特別支援教育特別専攻科修了生 6 名、大学院生 255 名、総計 1,745 名の諸君です。限りない可能性を秘めた 1,745 名の諸君を、琉球大学のキャンパスから社会へ送り出すことができ、感無量であります。

諸君は、人間力を備えたグローバル人材として成長し、社会から期待される有為な人材として、あるいは創造性豊かで優れた研究能力と高度専門技術を身に付けた研究者や専門家として、羽ばたいていきます。今後の諸君の活躍に社会は大きな期待を寄せています。精進して下さい。

ウォルト・ロストウの経済発展段階説を援用すると、諸君は離陸の準備段階を終えて、今まさに誘導路から滑走路に進入し、社会という大空へ向かってテイク・オフ（離陸）しようとしているところです。中には、希望する就職先が決まらず、離陸の準備段階がもう少し必要な諸君もいることでしょう。そのような諸君は、飛び立ってから不時着するようなことがないよう、焦ることなく、しっかり準備をして希望の空へ向かって離陸して下さい。多少のタイムラグがあっても、皆さん一人一人がそれぞれのタイミングで離陸することができます。

そこで、皆さんに望みたいことは、飛びっぱなしで整備不良にならないよう、たまには琉球大学という母港に舞い降りて、給油やオーバーホールをすることです。青春を送った母校を忘れないようにしてもらえれば、うれしい限りです。琉球大学は、卒業生・修了生をいつでも喜んで迎えます。Welcome home! です。

さて、皆さんが飛び立つ社会は、解決が急がれている課題が山積しています。

その中から、格差について考えてみたいと思います。格差とは、文字通りある側面について違いや差があることです。格差をネットで検索すると、格差社会、希望格差、経済格差、所得格差、教育格差、情報格差、地域格差、世代間格差などがヒットします。

ここで、所得や賃金、貧富の格差をまとめて経済格差とし、経済格差と教育格差、希望格差の関係を整理してみたいと思います。経済格差と教育格差は負の連鎖をします。しかも、それは世代間に亘って連鎖し、この悪循環から抜け出すのは容易ではありません。経済格差と教育格差が連鎖して悪循環する過程では、当事者間に希望格差が生じます。希望を持って成功のステップに乗れる者と、希望が持てずに絶望して負の悪循環にはまってしまう者に二極化してしまい、格差がさらに広がってしまいます。したがって、貧困の悪循環にはまっても、希望や夢を決して失わないことが大切です。

わが国をはじめ、先進国でも経済格差は生じていますが、その原因として、新自由主義に基づく市場原理主義が浸透したことが挙げられます。市場原理主義が浸透した結果、わが国では終身雇用・年功序列制の崩壊、非正規雇用、派遣社員、フリーター、使い捨て労働者などが出現して、雇用労働環境が二極化し、格差社会が生み出されました。

問題は、諸々の格差によって社会的弱者が生み出されることです。社会的弱者への対処は個々の当事者ではなく、基本的には国をはじめとする公的機関がその責務を負っています。とはいえ、沖縄県の子どもの貧困問題は喫緊の課題であり、行政だけでなく多くの人々の理解と支援が必要です。

ところで、琉球大学の建学の精神は、アメリカ合衆国第16代大統領のエイブラハム・リンカーンの精神を汲み取った「自由平等、寛容平和」です。選択の自由と機会の平等、多様性・異質性を認める寛容の精神、そして平和を求める心が重要であることを、本学の建学の精神は表現しています。

本日ここで格差の話をしたのは、格差が人として享受すべき自由や平等、幸福を追求する権利、さらには尊厳をもって平和に暮らすことを脅かす要因になっていると思うからです。選択の自由と機会の平等が必ずしも保障されていないところで、格差問題が生じます。その結果、悲運な人生を送らざるをえない人々が出てきます。

様々な経済社会的格差は、個人を超えて構造的にあるいは世代間で生み出される問題であり、人権問題だと言っても過言ではありません。このような困難な時代に、大学もそして諸君も何ができるかを自身に常に問い続け、社会への責任を果たしていかなければなりません。

本日をもって琉球大学を巣立つ諸君は、社会において様々な困難に出会い、格差や不平等に直面することがあるかもしれません。しかし、諸君は大学での学びと経験を通して総合的人間力を培い、たくましく成長したと信じています。多様性を受け容れ、社会的弱者に手を差し伸べることのできる寛容の精神と創造的叡智をもって、日々起こる経済社会問題にしっかりと向き合い、対処して下さい。

大空に向かって羽ばたく諸君の前途に幸あれ、と心からお祈りいたします。本日は誠におめでとうございます。

平成30年3月20日

国立大学法人琉球大学

第16代学長 大城 肇